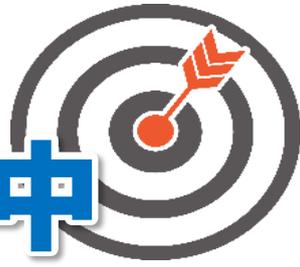


2026 ズバリ! 的中



世界史

慶應義塾大学

17世紀の英蘭関係について 250字以内で述べる問題が的中

入試問題

2月16日実施 法学部
問題Ⅳ 設問6

問題Ⅳ

以下の文章を読んで、下線部(ア)から(オ)に関連する設問1から6について、指示に従って番号を選び、マークシート解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、二重下線部については、設問6の指示に従って記述式解答用紙の所定の欄に解答しなさい。

⁽⁷⁾17世紀にはヨーロッパ各地で社会や政治の混乱がみられた。そのなかで、ヨーロッパの大半の地域を巻き込み、主権国家体制の形成につながったのが、当初は宗教戦争として始まった三十年戦争である。この戦争はウェストファリア条約の締結によってようやく終結し、ドイツの領邦君主には主権が認められた一方、神聖ローマ帝国による支配は形骸化した。主戦場となったドイツでは人口が減少して商工業も停滞したが、そうしたなかで戦禍の影響をあまり受けなかった⁽⁸⁾プロイセンとオーストリアが台頭することになる。

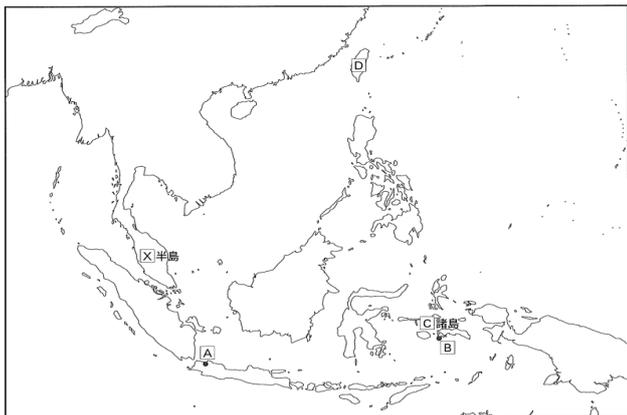
ヨーロッパにおけるこうした混乱の下でも繁栄を継続していたのが、⁽⁹⁾オランダである。国際商業力を大きく伸ばしたオランダは積極的に海外への進出を図り、アジアで支配を拡大しようとしたイギリスと競合するようになる。その間イギリスでは、国王の処刑に至る内乱が起き、共和政を経て王政復古が行われるなど、政治的・社会的混乱が生じた。

17世紀以降、「太陽の沈まぬ帝国」とも称された⁽¹⁰⁾スペインが徐々に覇権を失っていった一方で、イギリスとフランスはヨーロッパのみならず北アメリカやインドの支配をめぐりたびたび戦争状態に陥った。⁽¹¹⁾中世以来イギリスとフランスは戦争を繰り返してきたが、17世紀末から100年以上に及んだ両国の争いは第2次英仏百年戦争と呼ばれている。

〔設問6〕

12ページの文章の二重下線部に関連して、17世紀前半のアジアにおけるオランダとイギリスの競合と、17世紀後半のヨーロッパにおけるオランダとイギリスの関係について、あわせて240字以内で説明しなさい。

なお、解答にあたっては、東南アジアとその周辺地域の地図のAからDの各地名に、対応するアルファベットを併記する形で言及し(例:「Xマレー半島では……」のように書く)、また1651年と1689年のそれぞれに起きた出来事に、その年号とともに言及すること。



河合塾

高3 1学期 世界史論述
第9講 練習問題 4A

④

A イギリスとオランダ(英・蘭)は、歴史上、いくつかの局面で重要な関係を持ってきたが、17世紀における両国の友好関係と敵対(対立)関係について、次の語句(順序を問わない)を用いて、200字以上250字以内で記述せよ。なお、句読点、数字は1字に数え、所定の語句に必ず下線を付すこと。

名誉革命 アンボイナ事件 ルイ14世 英蘭戦争